

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
配慮事項	生物の生息・生育空間の広さ・形状の確保・適正化		
配慮事例	治水面と生物面に配慮した地形・植生改変に当たっての可能な限りの現地形の維持・復元・創出		
内容	<p>● 滞筋の保全・創出</p> <p>【解説】</p> <p>河床が平坦化すると河道全面をツルヨシ群落やヨシ群落といった単一の植生が覆い、元々生育していた多様な河辺植生が消失し、そこを利用する動物相も貧弱となります。平坦化している河床を掘削し、明瞭な滞筋を復元することで多様な流況が生まれ、河床材料、植生の多様化により生物多様性の向上につながります。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>① 滞筋を造成する場合、その幅はもともとの河川に存在した幅を参考とします。</p> <p>② 河道を拡幅する場合は現存の滞筋を出来る限り改変しないようにします。</p> <p>③ 滞筋蛇行部の淵にあたる箇所は魚類の休息場として機能するように深く掘り下げたり、植生復元をねらい直線区間を緩勾配にするなどの配慮も必要です。</p> <p>【事例】</p> <div data-bbox="288 1111 746 1527"> </div> <div data-bbox="774 1115 1444 1563" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【場所】</p> <p>兵庫県三田市 武庫川藍本地区周辺</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川が湾曲していることにより、流れが緩やかで、湛水域もあり、多くの生物が生息していたので、これらの環境を保全しながら流下能力を高める工事を行った。 ・ 生物のために工事前からあった滞筋や瀬を作った。 ・ 地元住民、専門家、行政により計画が検討された。 </div>		
	留意点	<p>・ 滞筋幅の基準となる「もともとの河川」については流況が変化している場合も多いので、現況を踏まえて計画する。</p> <p>・ 河道拡幅により河床材料が大きく変化する可能性も高いので留意する。</p>	
参考資料	<p>1 「中小河川における多自然型川づくり—河道計画の基礎技術—」リバーフロント整備センター</p> <p>2 「武庫川藍本 日出坂洗い堰 環境に配慮した床止工と多自然型川づくり」日出坂せきもりの会・阪神北県民局三田土木事務所</p>		